

山正ニュース

2014年1月号 (通巻56号)

2014年のはじまりにあたり



新年明けましておめでとうございます。東京オリンピック開催、リニア路線の決定、アベノミクス効果と明るい話題が出てきた2013年でした。2014年の今年はより一層明るい話題が豊富になるよう祈念します。しかし、一方では消費税増税、福島原発の処理問題、財政再建問題等、まだまだ課題が多い年となりそうです。また、日本農業にとっては、TPP交渉や、農政の大転換ともいえる減反廃止、土地集積バンクの設立や、大規模農家、大規模農業への集約等々、我々農業に携わる者にとっては大変気になるところであります。

昨年も異常気象が続きました。台風の異常発生、ピンポイントでのゲリラ豪雨、竜巻も頻発しました。水稻の作況指数は102であったものの、除草剤の効果不足、耐性菌問題の発生、高温障害への対応が求められています。また、ゴルフ場の管理においても春と秋がなくなった気候への対応が求められます。変化する地球環境に合わせて、適材適所の防除の推進と実施を心がけていきたいと思っております。

株式会社 山 正		
本社・緑化部	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4468
岐阜営業所	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4466
可児営業所	可児市川合塚越345-1	Tel <0574>62-5228
富山営業所	富山県射水市大江207-1	Tel <0766>55-3882
飛騨営業所	高山国府町857-2	Tel <0577>72-4466

さて昨年12月に「和食」が世界無形文化遺産に登録されました。「食」とは「人を良くする」と書きます。日本の人を良くするのが「日本食」であり、その主食である「お米」こそが、我々日本人の魂を燃やすものでないかと思っております。「お米」の作り方、食べ方、考え方を見直すことで、日本人が良くなり、日本国が良くなることを信じたいものでありますし、その為の活動を微力ながらしていきたいと思っております

弊社の行動指針は「自働、即行、感謝」であります。

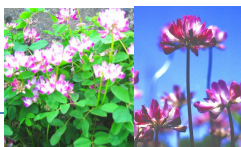
「自働とは：自らの志を持ち自ら働きかけること」、「即行とは：やるべきことはすぐ行うこと」、「感謝とは：関係しているすべての人にありがとうの気持ちで接すること」です。

今年は特に「即行」をキーワードにして皆さまに貢献していく所存です。もし、弊社社員の対応が他社よりも遅ければ叱咤激励してください。やるべきことをやるのは当然のことで、いかに早くやり遂げるかで差別化を図っていきます。本年も「人の幸せのための、環境(まち)づくり、人財(ひと)づくり」の経営理念の基、お客様皆さまの幸せのために、社員一同で貢献したいと思っておりますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

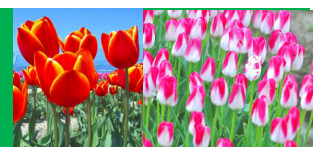
平成26年1月

株式会社 山正

代表取締役 堅田 充宏



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§1 コメについて考える⑦

～「和食」の主役を果たしてきたコメ、
世界無形文化遺産登録を機にさらなる魅力の深まりに期待！！～

新しい年が始まりました。昨年はTPP交渉の参加に始まり、年末には個別所得保障制度の見直し方針が打ち出されるなど、激動の一年でありました。TPP交渉の結果いかんによっては今後さらに厳しい局面も予想されているところですが、農業に携わる者にとって、日本人の、惹いては日本民族の精神的バックボーンたる「コメ」をなんとしても外圧から守らなければならないという思いを強くした一年でもありました。このようななか、「日本食」の世界文化遺産への登録は（1ページの社長巻頭言参照）日本食の主役である「コメ」にとっても、その役割の再認識につながるとても明るいニュースとなりました。これを機にあらためてコメの持つ魅力についてふれてみたいと思います。

稲作が日本列島に伝来したのは縄文時代の末期ないしは弥生時代始めとされ、ほぼ6～3千年前のこととされていますが、伝わって来たコメは野生稲の姿を色濃く残し、収量も低く、とても当時の人たちのお腹を満たすに十分たるものでなかったことは想像に難くありません。長らくこのような状況が続きましたが、8世紀後半の平安時代になって始めて現在



和食の主役は「コメ」
その魅力は「ほおぼる幸せ」！！
(原図は富山県による)

のコメのルーツにつながる粳米の栽培が始まりました。しかし収量は低く、稗や粟さらには芋類などで空腹を満たさざるを得ない時代が長く続くこととなります。転機が訪れたのは江戸末期から明治の初めに活躍した老農と呼ばれた人たちによって画期的な品種が見出された時期で、わが国初の水稲品種とされる「神力」や「亀の尾」がその代表的なものです。こ

れらの品種はその後の稲作におおきな影響を与えるとともに、大正12年(1912年)の「陸羽132号」、昭和元年(1926年)の「農林1号」へ、さらには現在一世を風靡しているコシヒカリ(1956年、農林100号)へと品種開発が引き継がれてきました。

しかし、縄文・弥生の先史時代から、古代、中世、近世を経てコメ余り時代の始まりである昭和40年代前半までの長きにわたり、稲作の目的は一貫して如何にコメをたくさん収穫し、胃袋を満たすかにありました。不作の年には空腹に耐え、時には戦をしてでもコメが収穫できる農地を守ってきたのです。そして、豊作の年にはたらふく胃袋を満たして豊穰の實りに感謝し、祭りを初めとするさまざまな伝統文化の礎となり、日本民族の精神的バックボーンともなってきたのでした。

このようなことから考えると、我々日本人のDNAにはコメを大切にし、しかも腹いっぱい食べたいという遺伝情報が深く刻み込まれていることは疑う余地のない事実といえるでしょう。多少まわりくどくなりましたが、日本人にとって何事にも代えがたい大切な役割を果たしてきたコメ。その魅力の最大のものは、腹いっぱい食べたいという日本人の遺伝情報に基づく欲求を満足させてくれる「ほおぼる幸せ！！」あるいは「ほおぼることができる幸せ！！」にあるといえます。そして、この魅力こそが外圧からわれわれが守るべき「聖域」の一つであるといっても過言ではありません。いずれにしても、食生活の多様化が進み、「食」の質も問われつつある現在、日本食の世界文化遺産登録を契機にその中心をなすコメの魅力がますます深まっていくことに期待したいものです。

2014年のはじまりにあたり 代表取締役 堅田 充宏 1 ページ

§1 コメについて考える⑦

～「和食」の主役を果たしてきたコメ、

世界無形文化遺産登録を機にさらなる魅力の深まりに期待！！～ (名畑技術顧問) ・ 2 ページ